

May 2000



サソリの心臓 : さそり座といえば夏の代表的な星座の一つで、Sの字型をしたその姿はよく目立ちます。さそり座の真ん中あたりに輝く真っ赤な1等星アンタレス（中央の星）は、ちょうどサソリの心臓の位置にあり、その直径が太陽の230倍もあるという巨大な星です。このあたりは天の川の近くでありながら星の数が少ないのは、大きな暗黒星雲に覆われているためです。アンタレスの右に星のかたまりがありますが、これはM4という球状星団で、アンタレスのような巨大な星が数十万個も集まっている星の集団です。



4月15日現在の「星の登録者」は4,781人です。

この冬は割合晴れる日が多く星がよく見えていました。雪は例年並だと思うのですが、強風の日が少なかったせいか積もる量が多く、多かったと感じている人が多かったようです。本州ではすでに桜の季節も終わって夏に向かってまっしぐらと言うところでしょうか。初山別での桜の開花は5月10日前後の見込みで、5月14日に東山樹園で桜まつりが行われます。

綺羅星・星座図鑑

からす座 (Corvus)

カラスというと街中でゴミを散らかし厄介者の代表にあげられる嫌われ者ですね。星座になっているカラスは、音楽と弓と太陽の神アポロンの遣いで、銀色の翼を持ち人の言葉を話すことのできる賢いカラスとされていました。

アポロンはテッサリア王プリギュアスの娘コロニスとの間に、アスクレピオスという男の子をもうけ増したが、パルナッソス山の神託所に帰らなければならなくなり、『毎日カラスを遣いに出しおまえたちの様子を知らせてもらうから・・・』と言い残して出かけました。ある日、道草をくって帰りがすっかり遅くなりました。そのため遅くなった言い訳に『アポロンが留守の間コロニスはほかの男に心を移してしまった』と口から出まかせを言ったのです。これを聞いて怒ったアポロンは家につくなり人影を見つけ、これが男かと一瞬にして矢を放ち殺してしまいました。しかし、それはアポロンを迎えに出ていたコロニスだったのです。アポロンは嘆き悲しみ、嘘をついたカラスから言葉を奪ったうえ真っ黒な姿に変え、見せしめとして天にさらしたとされています。

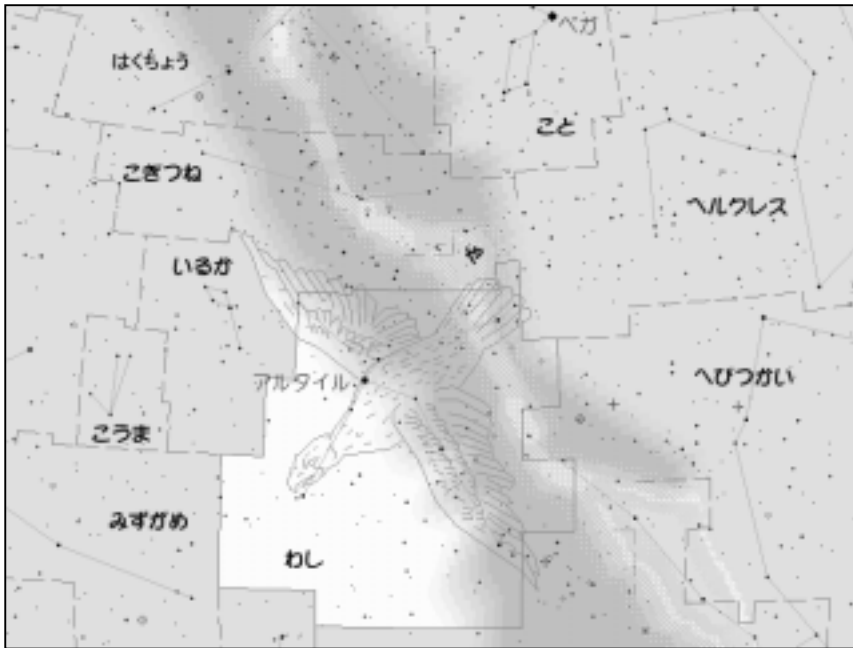


からす座は4つの3等星が作るゆがんだ台形をしていて、これが船の帆に見えるところから『帆かけ星』と呼んでいる地方もあります。あまり目立つ星はないのですが、乙女座スピカの西にある、小ぢんまりとした四辺形は意外と探しやすいでしょう。この中に NGC4038 という銀河があります。残念ながら小さな望遠鏡では見ることはできませんが、二つの銀河が衝突した姿で、核からのびた2本の細い腕があって、白いネズミのように見えるところから『ハツカネズミ星雲』と呼ばれています。そして中心部は二つの核がくっついてハートの形に見えるのです。

わし座(Aquila)

鷲座は夏の天の川の中にあり、1等星アルタイルは七夕の彦星として知られています。鷲座はギリシャ神話や中国の伝説など世界中にいろいろな神話がありますが、ここではアイヌの伝説『働き星と怠け星』についてお話ししましょう。これはアルタイルとそれをささむ二つの星の話です。

昔、大きな川のほとりに貧しい母親と怠けものの兄、そして働き者の弟の三人がすんでいました。兄



は弟が稼いだお金を、すぐに使ってしまうので暮らしは少しも楽になりません。それを心配していた母はとうとう病気で死んでしまいました。これには兄もすっかり後悔して、もう一度母を戻してくれるよう天の神様に祈りました。ある日のこと見慣れないおばあさんが兄弟の所にやってきました。みずばらしい姿ではありましたが、目が輝き、ただ者ではないと思った二人は丁寧にもてなしました。おばあさんもすっかり満足し『亡くなったお母さんに会

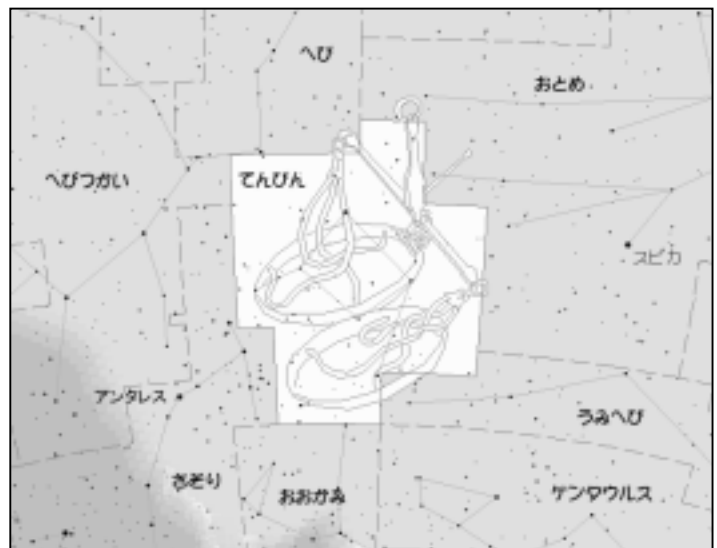
いたいのだね。それなら私を船で向こう岸まで連れていっておくれ』と言いました。二人は大喜びで船に乗せこぎ出しました。ところがいくらこいでも向こう岸に着きません。とうとう兄はいやになってかいを放り出し、船の中に寝転がってしまいました。けれども弟の方は母に会いたい一心で一生懸命こいでいます。この様子をじっと見ていたおばあさんは急に立ち上がると、弟を抱き、光り輝く女神の姿に変わり空へ上っていきました。びっくりして飛び起きた兄は『私も連れていって』と叫んだもののもう手遅れでした。船はぐんぐん流されてそのまま地獄に落ちてしまいました。天の神はこのことを戒めとするために、三人の姿を星にしたのです。

アルタイル(ひこぼし)はアイヌ語でウナルペクサ・ノチウ(川を渡すおばあさんの星)といわれています。そして左側の4等星が怠け者の兄、右の3等星が働き者の弟だといわれています。

 鷲座は天の川の中にあり、1等星アルタイルは七夕の彦星としてよく知られています。見かけの明るさは0.9等、距離は17光年、大きさは太陽の1.7倍程度とごくふつうの星ですが、詳しく観測したところ、自転周期がわずか6時間(太陽は25日)という、猛烈なスピードで回転していることが分かりました。自転がこんなに速いと、遠心力で形がつぶれてまんじゅうのようになっていると考えられています。

てんびん座 (Libra)

黄道(太陽の通り道)には13の星座があります。そのうちの12の星座は昔から占星術につかわれていて、一般には星占いの星座として有名です。星占いの12星座のうち道具が星座になっているのはこの天秤座だけ



です。

この世が黄金時代で世界の隅々まで平和が行き渡っていたころ、神々は人間とともに下界に住んでいました。やがて銀の時代になると人々は家を建て、畑を耕して次第に強いものが弱いものを虐げるようになりました。これを見て愛想を尽かした神々は天界へ引き上げましたが、正義の女神アストレア（乙女座）だけは下界に踏みとどまり正義を説き聞かせていました。しかし、やがて銅の時代になると、嘘や暴力がはびこるようになって、よその国を攻めるようになりました。さすがの女神も耐えきれなくなり、とうとう天界に駆け上がったのです。この天秤は、アストレアが人間の善悪を量るための道具だと伝えられています。

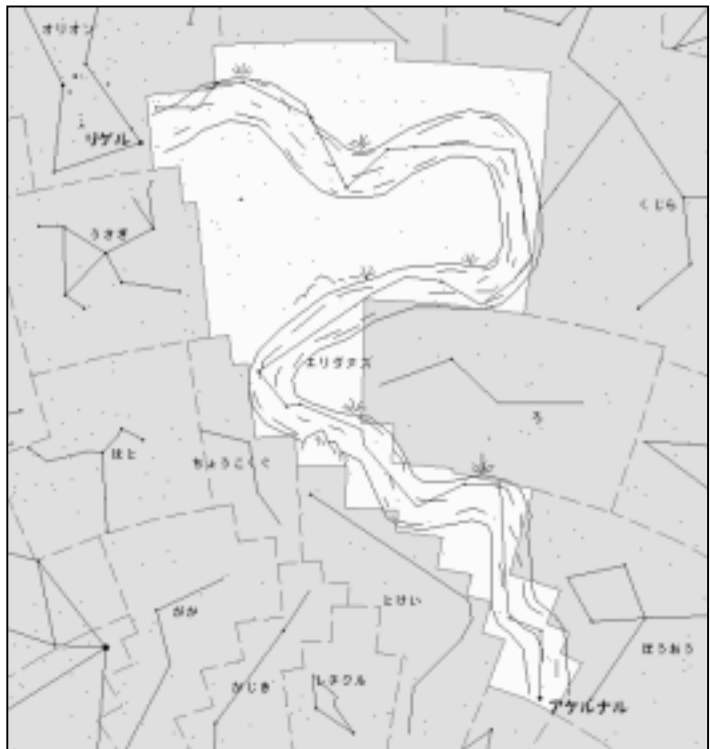
天秤座にはこれといって目立つ星はありませんが、 α 星は肉眼でも見える二重星で、2.9等星と5.3等星の星が3'51"離れて並んでいます。また、この星は黄道の近くにあるため、しばしば月や惑星が接近します。

エリダヌス座(Eridanus)

オリオン座リゲルの西からうねうねと連なり、北側の部分は大きなハート型に見えます。エリダヌスというのは川の名前で、ヨーロッパに実在する川だといわれています。

太陽の神アポロン（鳥座でも書いた）は、まばゆく光り輝く日輪の馬車を4頭の馬に引かせて、毎日天の黄道を東から西へ巡っていました。アポロンにはクリュメーネの間に生まれたパエトーンという子供がいました。パエトーンは父アポロンの乗っている日輪の車に乗ってみたいとたまに頼みましたが、そこで父に『明日1日だけ、あの日輪の馬車を貸して下さい』と頼みました。この馬車はアポロンをおいて神々はもちろん、大神ゼウスでさえ走らすことはできないのです。しかし、あまりにも熱心さに負けてとうとう許してしまったのです。

父は『手綱をしっかりと握り道を外れないように』と何度も言い聞かせました。馬車はぐんぐん空に上り、雲を突き抜け風を追い越しました。パエトーンは愉快でたまいません。けれど、馬は乗り手がいつもより軽いので、たちまち暴走し天のあちこちに火がついて大騒ぎとなりました。この様子を見て驚いた大神ゼウスは、雷電を馬車にめがけて放ちました。雷電は馬車をうち砕き、パエトーンは真逆様にエリダヌス川へ落ちて無惨な死を遂げたと伝えられています。



エリダヌス座はハートの形に見える星座ですが、果てしなく南に連なっていて、南端には1等星アケルナル（川のはてという意味）という星がありますが、沖縄まで行かなければみることはできません。エリダヌス座は天の川から離れた位置にあるため、銀河が多くあります。

綺羅星列伝

皆様からお寄せいただいた星物語の一部をご紹介します。お寄せいただいた物語はしょさんべつ天文台にあります。いつでも閲覧できますのでお立ち寄りの際はご一読ください。

星の名前 : **jiroud and coo**

我が愛する妻の一周忌の今日、長女の麻衣子から、とっても素敵な贈り物が届きました。北海道のしょさんべつ天文台からで、“jiroud and coo”と命名された星のプレゼントでした。妻と私が若かりし頃考えた二人のイニシャルでした。何物にも換えがたい贈り物に胸つまる思いでした。妻もさぞ喜んでいることでしょう。

1998年10月27日午後3時17分、妻は永遠の眠りにつきました。乳ガンを発病し、8年の間何度か再発し、そのたびごとに手術で、体にメスを入れられ傷つけられてのガンとの闘いにとうとう力尽きてしまいました。最後の時は、全身に転移していました。主治医も驚く程の生命力で、亡くなる9日前まで自宅に居て、仕事をし、食事をつくり、私や子供達の世話をしてくれて、明るく楽しそうに暮らしておりました。本人にとってはかなりきつかったと思いますが、それが彼女自身やりたかった事ですから生き生きしておりました。

最後の入院になった時、初めて子供達に詳しく妻の病状について聞かせました。東京の杏林大学病院に看護婦として勤務している麻衣子にも初めて電話で知らせました。丁度、夜間勤務の最中で激しく泣かれ、今迄知らせなかった事を責められました。明日の朝一番の飛行機で帰るとの事で、大分空港迄迎えに行く間、何と言って励まそうかと頭がいっぱいでしたが、空港で会った娘は一睡もしない為、疲労の色は隠せませんが、目には涙

はなく、一人のプロとしての看護婦の顔でした。それから8日間、妻の前では涙一つみせず、献身的な看護をしてくれました。妻には詳しい病状を話していませんでしたので、母に悟られまいと必死の覚悟があったと思います。主治医に「今日明日の命です」と言われた時、母の元に向けより「お母さん！」と泣きくずれました。娘の顔に戻りました。妻もその時、死に近いことを悟ったようで「自分の最後の時を娘に看護してもらえて幸せだった。貴方の妻として生きてこれた事とても嬉しかった。ありがとう・・・」と。

妻の遺志で葬儀は行わず、線香もお坊さんも一切なく、妻が好きだった真白のトルコキキョウの花に囲まれて、家族と身内と、親しい友人達だけで“お別れ”をしました。

友人が弾いてくれたピアノ演奏の中、妻は永遠に旅立ちました。そんな時、娘がこう言いました。「この一週間、私が側にいてあげてお母さん、とっても喜んでくれたけどパパが病室に来るとお母さんの顔が明るくなり、目でパパの事ずっと追ってた。お母さん心の底からパパの事好きだったんだね。娘としては少し悔しいけどお母さん幸せだったんだね。負けたって感じ。でも素敵な女性だったネ」と。

妻は3人の子供に対して、とても優しい母親でした。でも良き母親である以上に一人の男を生涯愛し続けた女であったのです。「先に行って部屋を掃除しておくから、ゆっくりしてから来てね。

向うで待ってる。ありがとぅ……。これが妻の最期の言葉でした。妻の遺志で納骨せず、今でも我家で眠っています。私が死ぬ迄、この家に一緒に居て一緒に納骨して欲しいとの事です。娘の麻衣子は再び東京に戻りました。一人での東京の生活は、とてもつらく淋しい毎日だったと思います。「患者さんの心の痛みが分かる看護婦になりたい」と言っていた娘が「患者さんだけではなく、患者さんの家族の人達の心の痛みも分かる看護婦になりたい」に変わりました。娘が母の死を通して成長したんだと思います。私はこんな娘を持てたことを誇りに思うし、ここまで育て上げてくれた妻に感謝し尊敬します。私は男ですから母親の代りは出来ません。でも二人分の父親役なら出

来るかも知れません。親という字は木の上に立っていつでも見ていると書きます。いつも見ている、目を向けていてあげる、こんな気持ちを大事にしていきたいと思います。娘がこれからどんな道を歩んでいくのか、それは分かりません。でもその時々娘の選択を心から認めてやろうと思っています。だって我が娘が決めたことですから。私と我が愛する妻の間に生まれ育ってきた娘のする事ですから！

いつの日か、多分そんな遠い先ではない日に、娘と二人で、しょさんべつ天文台を訪れたいと思っています。その時“jiraud and coo”と対面出来たらと楽しみにしています。

星の名称 : **MILLENNIUM STAR**

今年 2000 年で 1000 年の区切りがつかしました。もう一生経験することのできない年です。私は今までたくさんの友達を作り、悩みをもち、努力を重ね……。いろいろな経験をしてきました。でもこれからの人生は長いもので、どんなことがあるか分かりません。「人は星の数ほど人生を歩んでいく。星の数ほど悩み、星の数ほど努力して星の数ほど経験する。そして、そんな自分を見守ってくれる、そんな自分の支えになってくれるのが星の数ほどの友達とやさしさなんだよ。」ある友達からこんな言葉を聞いた時、私の中にはいつもこの言葉がありました。うれしい時、つらい時、楽しい時……。そんな時、ふと夜空を見上げると数え切れないほどの無数の星。どんな時でもキラキラと輝いています。『うれしいこと、楽しいことはまだこんなにあるのか。つらいこともまだこ

んなに……。』そう思うといつのまにか元気な自分が戻ってきていました。今回ミレニアムスターと星に名前をつけたのは『今まで以上に星の数ほどがんばってやろう』という私の今年の目標でありました。2000 年なんだから今までと変わりのない年じゃつまらないと思ったのです。何の取り柄もなくなつた明るく元気なだけの私が、ミレニアムの年に星の数に負けないくらい努力して、いろんな所で星のようにキラキラと輝けばいいなと思っています。

まだ私は輝いていませんがきっとどこかで輝いてみせます。この輝きは、いつも元気をもらっている星と一緒に記念に残しておきたいと思います。2000 年～ミレニアム～。ミレニアムスターという私の星が空にある限り、いろいろな面で私はがんばっていききたいです。

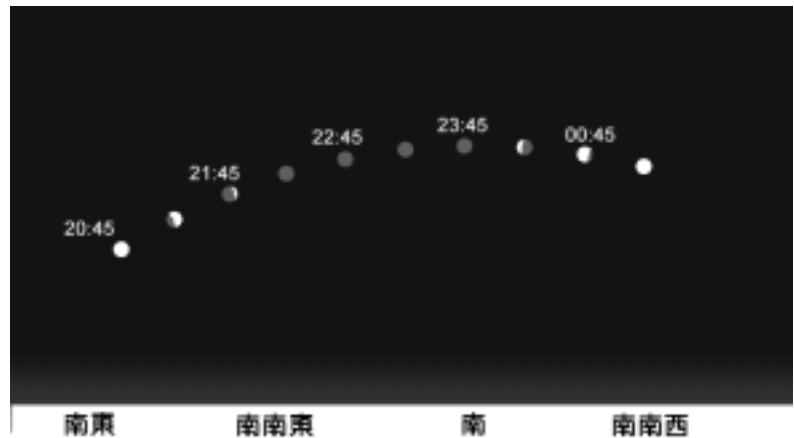
天文情報



これからみられる大きな天文現象のお知らせです。望遠鏡がなくても楽しめるものです。

● 7 月 16 日（日）皆既月食

20 時 55 分から 00 時 55 分にかけて月食がみられます。月食は月が地球の影には入って暗くなる現象で、今回は影の中心付近くまではいるので、皆既月食の時間は 1 時間 47 分もあります。影の中に入った月は暗くなって見づらいのですが、今年は太陽の活動が活発な時期なのでピンクの月が見えるでしょう。



● 肉眼で彗星が見える

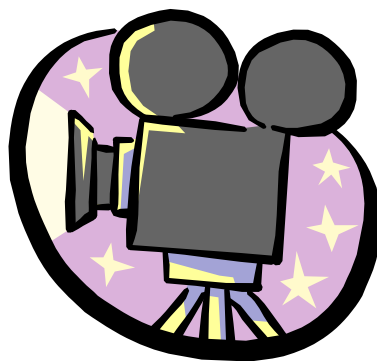
昨年 9 月にアメリカのリンカーン研究所で発見されたリニア彗星が 7 月 26 日に太陽に最接近し、7 月から 8 月上旬まで夕方の北西の空に、3～4 等級まで明るくなり肉眼でも見えると予想されています。イメージとしては 3 年前のハールボップ彗星を小さくしたような感じと考えられます。この彗星は今回初めて太陽に接近するので、明るさの予想は正確とはいえません。もしかしたら暗くて見えないかもしれませんが、明るくなることを期待しましょう。

下の図は初山別における 7 月 26 日の星空を、彗星は 2 日ごとの 20 時の高さをあらわしています。見る場所によっては少し違って見えますので、彗星と星座の位置関係として参考にして下さい。



シネマ情報

みなさん、しょさんべつ天文台がフジテレビの「白線流し」というドラマに登場したことはご存じのことと思います。ごらんになられた方も多数おられることでしょう。そして、今度は映画の中に出ることになりました。映画のタイトルは「卒業写真(仮題)」といい、今年のクリスマスに公開予定だそうです。ロケの様子は後日初山別村のホームページでも公開したいと思っています(6月か7月の予定)。映画の詳細については制作会社の方から発表があると思いますので、今しばらくお待ち下さい。



お知らせ

今年も「岬まつり」と「星まつり」が行われます。

○岬まつり

日時：8月5日(土)～6日(日)

会場：みさき台公園ふれあい広場

内容：歌謡ショー、各種イベント、花火大会など

○星まつり

日時：8月5日(土)18:00～6日(日)09:00

会場：しょさんべつ天文台

内容：天体観望、プラネタリウムコンサート、天文工作などを予定しています

内容はまだ確定していないので変更されることもあります。

「My Stars 通信」で使用している天文図はすべて StellaNavigator5(AstroArts)を使用しています。

[連絡事項]

住所・氏名が変更になりましたらご一報ください。星物語はいつでも募集しています。郵便、E-mail どちらでも受け付けますので、お気軽にどうぞ。

[編集後記]

いつのまにか 20 世紀も最後の年となりました。ちまたであれだけ大騒ぎした Y2K っていったい何だったのでしょうか。今年は 11 年ごとの太陽活動が盛んな年。初山別からオーロラ見えるかなってちょっと期待しているのですが、果たしてどうなることか。1 回目の映画のロケが終わった 3 月 31 日に有珠山が噴火して、避難したみなさん大変でしたね。この原稿を書いている時点では、まだ大勢の人が自宅に戻れないでいます。火山の噴火も地震も天候も、自然相手って思うようにならないのがつらいところです。

編集・発行 初山別村教育委員会社会教育係 〒078-4421 北海道苫前郡初山別村字初山別 155-1

インターネットホームページ URL=<http://hokkai.or.jp/shosanbe/>

E-Mail shosanbe@hokkai.or.jp